

学校教育目標	基礎・基本を身に付け、自ら考え行動し、共に高まり合う生徒の育成
育成を目指す資質・能力	他者と協働する力、問題発見・解決能力、基本的生活習慣及び基礎的・基本的な知識・技能の習得

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<p>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <p>大分県学力調査において、2年生は国数理科の4教科で、目標値及び市・県・全国の平均正答率を上回り、英語では目標値をやや下回ったものの、市・県・全国と同一の55.3%であった。</p> <p>全国学力・学習状況調査において、3年生は国数理ともに平均正答率と中央値で県及び全国の数値を上回ったが、目的に応じて情報を引用したり、説明や分析・解釈を伴う記述式の問いにおいて正答率が下がるとともに無解答率がやや高くなっていた。</p>	<p>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <p>2年生は、全教科正答率が市や全国を上回った1年時の調査結果を維持する取組が継続されているといえる。3年生は、国数理ともに無解答率が低く、「解答時間がやや足りない」という回答が多いことから、粘り強く問いに向かおうとする姿勢の定着がうかがえる。質問紙調査においては、高い自己肯定感と学習への前向きな姿勢が顕著に表れていたが、「読書を全くしない」と回答した生徒の割合が高く、改善の必要性がうかがえた。</p>
	<p>これまでの学力向上の取組に対する生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)</p> <p>生徒会と連携した授業規律の徹底や家庭学習の取組は概ね満足できる状況で、1学期末のアンケートによると、「授業の内容が理解できている」という問いへの生徒の肯定的回答は91%であった。定期テストにおける正答率40%未満の生徒の割合は平均9%であり、一定の成果がうかがえるものの、学年・教科ごとには課題もあり、引き続き充実した取組が求められる状況である。</p>	
指導の状況	<p>1 組織的な授業改善の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師アンケートにおいて、「分かる(できる)授業を心がけ、指導の工夫をしている」という問いには100%、問題解決的な展開の授業を意識した単元計画の作成や実践については90%の肯定的回答が見られたが、4段階の最高評価を選択した割合は、それぞれ57%と19%であり、十分満足できる状況とは言えない。さらに、ICT等タブレットを活用した協働学習の実施については62%の肯定的回答にとどまっており(最高評価は29%)、取組の充実及び推進が必要な状況である。 <p>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「志タイム」において、読書や試写、ドリル学習を計画的に実施し、基礎・基本の定着や読解力の育成を図った。 ・学習コーナーの設置や学年ごとの質問教室の実施等によって、個別の補充学習の充実を図った。 ・学習規律徹底に向けた生徒会主体での啓発や支え合いによって、学習集団としての成長を図った。 	

学力に関する達成指標

定期テストで、正答率40%未満の生徒の割合10%以内

